



佐渡市脱炭素推進会議 (第3回 ベストミックス構築部会)

2022年 12月

【佐渡市の電源に関する現状・特性について：東北電力ネットワーク】

- ・ 現況の電源構成は、約90%が火力発電。再エネ（太陽光）は5%程度
- ・ 佐渡は離島ユニバーサルサービスの対象となっており、これにより、本土と変わらない電力供給サービスがされている
- ・ 電力供給に当たっては、「安定供給」が必須で、トルクのある発電設備（火力発電）が非常に重要な役割を担う
- ・ 太陽光発電や風力発電は出力変動が大きい。火力発電は、13,000～15,000kWの予備力をもって常に運転している
- ・ 火力発電の出力を下げすぎるとエンジンへの負荷が大きくなる。今後は、蓄電池等の活用も考えなければならない
- ・ 将来の電源構成については、新技術の状況も踏まえながら検討したい
- ・ 直近では、1,500kWの太陽光発電、5,000kWhの蓄電池を設置し、需給調整等の試行を進めていく

1. 第2回部会のふりかえり

【自然エネルギーの島構想の内容について：新潟県】

- ・ 島構想の目標年は2050年
- ・ 課題は、①大量の再エネ導入、②電力系統の安定化のための調整力の確保



2. 脱炭素先行地域づくり事業の状況

【脱炭素先行地域の課題】

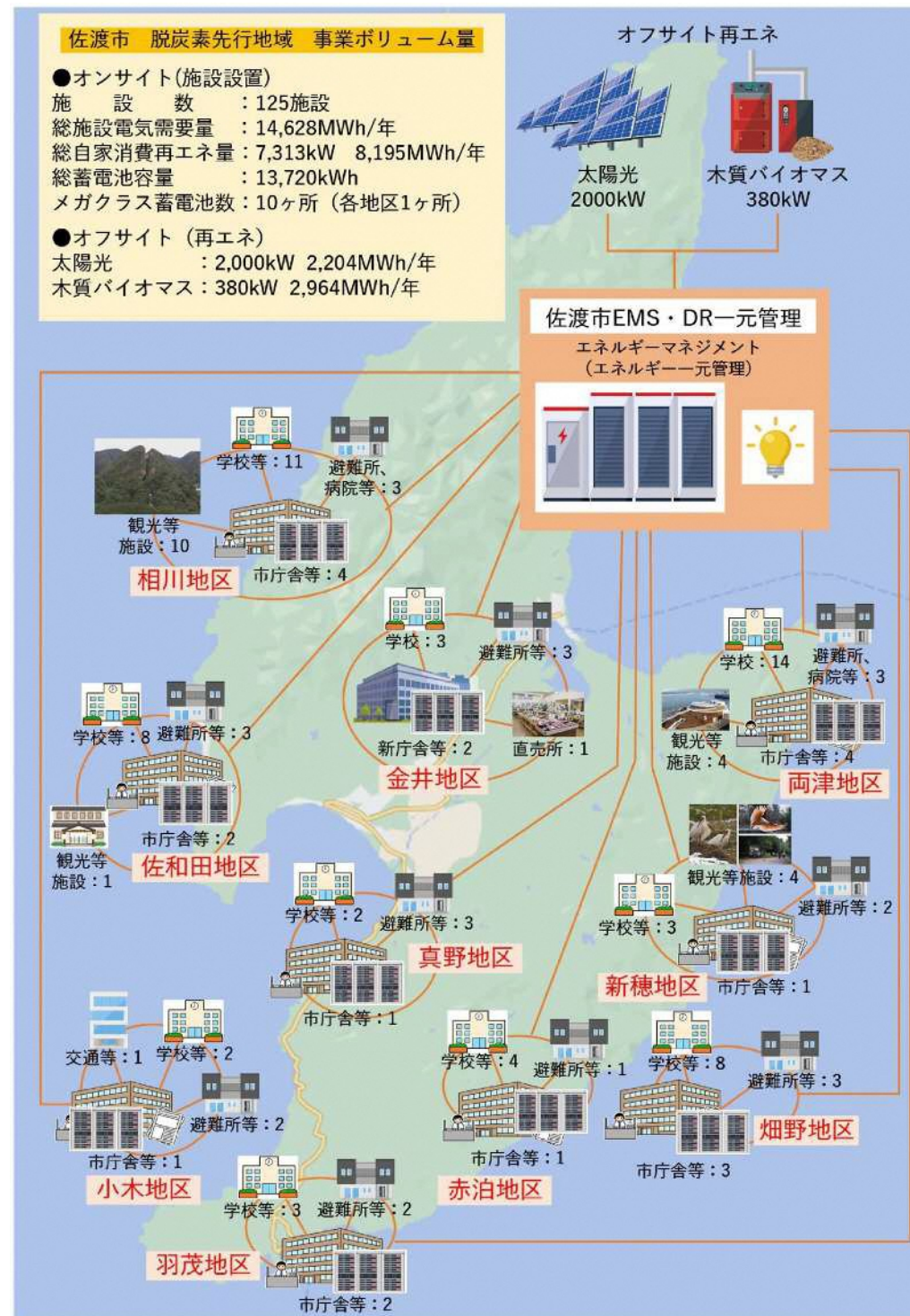
①ステークホルダーに関する事項

■太陽光や木質バイオマスなど、
オフサイト再エネを発電し、先
行地域内の需要家に供給する
⇒小売電気事業者を介して電力を
供給する必要あり

■各施設の電力の需要と供給のバ
ランスを一定に保つ（EMS・DR一
元管理）

②事業推進に関する事項

■事業期間の短縮化（早期の事業
効果の発現）



3. 脱炭素先行地域の課題解決に向けた意見交換

【課題解決に向けて実施すべき事項等に関する意見交換】

①ステークホルダーに関する事項

⇒以下の事業のステークホルダーをどうするか

- ・ オフサイト発電所の発電
- ・ オフサイト発電電力の需要施設への小売・送配電
- ・ 佐渡市EMS・DRによる需給調整の一元管理

②事業推進に関する事項

⇒事業期間を短縮化していくための工夫